



しらおい
防災マスター会
お茶の間
防災教室

災害発生時、ペットをどうする？

犬、猫の飼い主が知っておくべき準備と対策

災害が起こった時に最初に行くことは、もちろん飼い主自身や家族の安全確保ですが、ペットについても、普段から考えておく必要があります。

東日本大震災では、飼い主とはぐれた多くのペットが放浪状態になったり、命を落としたりしました。ある避難指示区域では飼われていた犬と猫はおよそ1万6,500匹。そのうち飼い主とともに同行避難（※）したのは、わずか1,670匹でした。とくに猫は地震に恐れて身を隠し連れ出すことができなかった例もあります。ペットの命を守るために必要な準備と対策を考えておきましょう。自治体によってはペット避難の対応の違いがあるので事前に確認することも大切です。

（※）同行避難とは、避難所までの避難行動（行為）のことをいいます。避難所でペットと人が同じペースで過ごすことなどの同伴避難を示すものではありません。

【ペット災害対策のポイント】

- ◆ 飼い主の安全を確保して、ペットと同行避難する。（同行避難できるか事前確認が必要）
- ◆ ペットの最低限のしつけやケージに慣らす訓練をしておく。
- ◆ 迷子対策としてマイクロチップや迷子カードなどを装着して迷子対策を行う。
- ◆ 避難時のペットとの車中泊は飼い主のエコノミー症候群に注意。
- ◆ 避難場所ではペットの最善の健康管理を行い、持病があるペットは多めに薬の準備をする。
- ◆ 避難所での管理は自己責任で管理します。飼い主同士の助け合いが不可欠です。
- ◆ ペット用非常持出品を準備しておく。

- ① 1週間分のフードと水②いつも使っている食器(ボール)③予備のリード、首輪④ペットシート
⑤トイレ用品(猫砂) 排泄用品⑥ブラシ、爪切り⑦病気の場合は薬⑧ペットの記録カード

環境省資料から抜粋

（しらおい防災マスター会・民部）

町社会福祉協議会「町民防災講座」赤い羽根共同募金助成金事業

防災

みんなで考える 「女性や子ども目線の防災・ 避難所運営」

講師に気象予報士・道防災教育アドバイザーの住友静恵さん

町民や関係者など約50人が出席しました。住友さんはそれぞれの被災地での事例から、「女性ならではの避難所の問題」として、①プライベートがない②トイレ使用の混雑と不安③調理や片付け、掃除が集中し役割分担が偏る④下着や生理用品など物資供給時の配慮⑤性暴力・DVの5点を提示。



解決例として、女性専用洗濯干し場の設置やトイレに行く不安を除くための防犯ブザーや照明、トイレ数は男性：女性で1：3の

比率が望ましいこと、役割を固定せず自分でできることを考える、物資供給の女性担当者の必要性や専用供給スペースの確保、性暴力やDV防止に関するポスターの掲示や照明、防犯ブ



ザーの配布、巡回警備、女性の相談員配置や専用相談窓口の設置など、早めの段階で防止の雰囲気をつくることなどを提案しました。ほかにも世代や障がい者、外国人、LGBT（性的マイノリティ）などへの配慮も提案していました。

住友さんは「防災は女性の意見を取り入れやすい環境づくりが肝心。災害が実際に起こってからでは遅く、日ごろからの心構えと準備が必要。特に顔の見える関係づくりが大切。いざという時に力を発揮します」と語っていました。



【住友静恵さん】

2005年から気象キャスターに従事。2012年から5年間、気象予報士としてNHK「おはよう北海道」などに出演。現在は女性や障がい者など災害弱者の視点から防災教育に取り組んでいます。



おめでとうございます!

紺谷マツノさん(99)